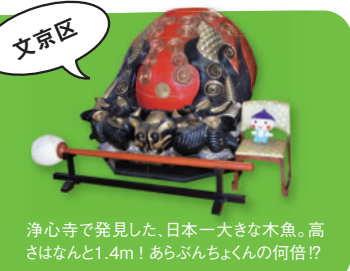


あらぶんちよ散歩 vol.115

むこうがおかにちょうめ

向丘二丁目

江戸の大観音で有名な光源寺をはじめ、15以上の寺院が点在する、区内有数の寺町エリア。このあたりにお寺が多いのは、明暦の大火で移転してきた所が多いからとか。この地に住んだ夏目漱石に想いを馳せ、東大から団子坂まで、文学散歩を楽しもう。



高林寺
創建は慶長元年(1596年)。境内に湧いた名水を毎日将軍に献上したことから、「お茶の水高林寺」と呼ばれた。明暦の大火により当地へ移転。幕末期の蘭学者・緒方洪庵の墓などがある

清林寺
江戸三十三観音8番札所。正式には東梅山花陽院清林寺という。草創は文明15年(1483年)とされ、移転を重ね、現在の地へ。現在、飛鳥時代様式で木造の三重塔を建立中

浄心寺
江戸三十三観音10番札所。元和2年(1616年)に湯島妻恋坂付近に創建。その後、振袖火事により現在の地へ、通りに面して立つ、大きな布袋尊像が目印。桜の名所としても知られる

西教寺
徳川家の重臣・酒井家の屋敷から譲り受け移築したとされる朱塗りの表門は、文京区指定有形文化財。他にも、境内には貴重な寺院木造建築が数多く残る

光源寺
天正17年(1589年)神田に創建され、慶安元年(1648年)に現在の地へ。境内には御丈約5mの十一面観音像があり、「駒込大観音」として親しまれたが東京大空襲で焼失。平成5年に再建された

海蔵寺
天文年間(1532-1554年)に現在の和泉町内に創建され、その後明暦年間(1655-1657)に現在の地に移転。江戸庶民に富士信仰を広めた富士行者身祿の墓がある

御菓子司 一炉庵
明治36年創業の老舗の和菓子店。素材の味を生かし、昔ながらの製法ですべて手作りしています。種類豊富な上生菓子は、二十四節気でも移り変わり、一年間で450種にもなるそう。創業当時からある夜雨最中などは、近くに住んでいた漱石も食べていたかもしれません。漱石にちなんだ「猫のひとりごと」という菓子もあります。散策のおともにいかがでしょう。

御菓子司 一炉庵
上生菓子は350~400円。夜雨最中はこしあん、つぶあん各150円
←猫のひとりごと。味は2種類あり、各240円

1 良米工房 堀江米店
〒文京区向丘2-12-2
☎03-3821-3500
時9:00~19:00
休日・祝

2 中華そば 暴雷油
〒文京区向丘2-37-3-101
☎03-3827-6768
時11:00~22:00
休日・祝

3 玻璃家
〒文京区向丘2-11-8
☎03-5834-1255
時11:30~14:30LO
17:30~21:30LO
休無休

4 Cafe 縁 yosuga
〒文京区向丘2-12-2
☎03-3821-1008
時11:30~15:00
土12:00~15:00
休日・祝・月
(月が祝日の場合火も休)

5 スパイスバル コザブロ
〒文京区向丘2-34-8
☎03-6874-1597
時17:00~24:00
土11:00~15:00/17:00~24:00
日祝11:00~15:00/17:00~21:00
休月

今月のエリアウォーク
10210 歩
お寺がたくさんあり
緑豊かで見どころも多い

光源寺 住職夫人 島田 富士子さん

参加して気持ちいいお祭りを目指す、手作りのほおずき市

光源寺のほおずき市は江戸時代から続いている縁日で、この日にお参りすると観音様のご利益を四万六千日分だけとたくさんの方が訪れます。かつては子どもの数が減ってしまい、一時途切れたこともありましたが、お祭りがないのはやはり寂しいので、自分たちの手で復活させよう！とみなさんに呼びかけて、平成13年に復活させて今年で17回目を迎えます。地域の有志が集った手作りの市なので、ほおずき、風鈴はもちろん、手作り小物や飴細工、おいしい屋台に太鼓の演奏など、さまざまな催しが集います。まさに千成り、楽しい市です。組織にこだわらず、自ら手伝ってくれる人、やりたい人が作る市になるよう、私はみんなの調整役をしているだけ。出店した人たちも参加して気持ちいいお祭りになるよう、毎年、開催前にお手伝い&出店者一同が集まる顔合わせの宴会も開催しています。出店者同士のつながりもできずし、人々の輪ができるのはいいことだと思っています。時代とともに形は変わっても、人々が集う場所として、ほおずき市があり続けてほしいと思います。



1 良米工房 堀江米店

米粉のシフォンやおはぎなど米スイーツや惣菜が大人気！
店構えは新しいが、実は100年続く老舗のお米屋さん。手作りの炊き込みご飯やおはぎが評判で、飛ぶように売れていく。また、木曜日はシフォンケーキ、金曜日は玄米グラノーラとベルギーワッフルと曜日限定の米粉を使ったスイーツも人気。

↑おはぎ2個入り260円、6種類あるシフォンケーキは180円~
→四代目で五つ星お米マイスターの堀江英紀さんと米スイーツを担当する妹の保坂美美さん

2 中華そば 暴雷油

トリュフが香る、透明なチキンコンソメの中華そば
フレンチ出身のシェフが作る、チキンコンソメを使ったラーメンが味わえる。店名はフォン・ヴォライユ(鶏のだし汁)からで、その透き通ったスープは、あっさりしているのに滋味深い。北海道産小麦を石臼で挽いた風味豊かな麺との相性も◎。

↑トリュフ塩が香る、暴雷油ラーメン980円。メンマも自家製
→店内の内装も自分でデザインしたという、店主の谷浦靖史さん

3 玻璃家

ランチはお弁当も人気 おしゃれな本格中華料理店

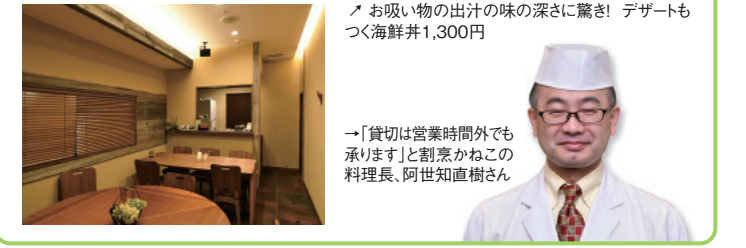
店名は「ガラスの家」という意味で、ガラス建築で名高い葉祥栄氏の設計によるもの。1Fが厨房、2Fがレストランになっていて、お昼は1Fで弁当(490円~)の販売も行っている。週替わりのランチセットは3種類1,000円~。夜は3,000円からのコースとアラカルトもあり。



4 Cafe 縁 yosuga

割烹かねこの本格的な味をリーズナブルに堪能できる

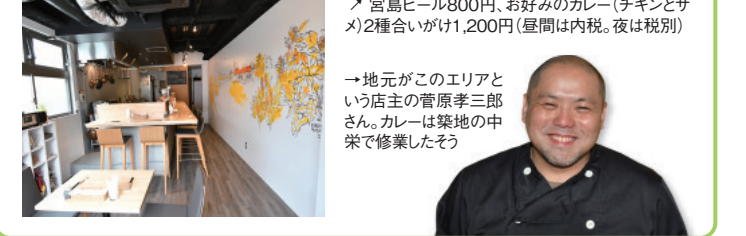
割烹かねこに併設された小さなカフェ。平日のランチは割烹の味を手軽に楽しめるという。13時には売り切れてしまうという人気ぶり(席の予約もOK)。土曜日は洋食ランチが楽しめる。ランチ売り切れ後はカフェタイムに。オーガニックブレンドコーヒーでくつろぎのひとつときを。



5 スパイスバル コザブロ

スパイスを効かせた 絶品カレーが味わえる!

4月27日オープンのスパイス料理が自慢のバー。店主の菅原さんセレクトによるお酒に合わせたスパイシーな料理の数々はどれも絶品。キッチンから漂う香りに食欲を刺激される。シメにおすすめるカレーは全4種類。チキン、ラム、ひよこ豆のほか珍しいサメのカレーもあり。2種合いがけもできる。



「吾輩は猫である」が生まれた “猫の家” と呼ばれる夏目漱石旧居跡

夏目漱石がイギリスから帰国後の明治36年から約4年間住んだ旧居跡。東京大学英文科・第一高等学校の講師をしながら処女作『吾輩は猫である』を執筆し、作品の舞台となったこの家は“猫の家”として親しまれました。また、『倫敦塔』『坊っちゃん』『草枕』等の名作を次々に発表したところでもあります。家屋は愛知県犬山市にある「明治村」に移築されています。



SPOT 夏目漱石ゆかりの菓子もある 明治から続く老舗「御菓子司 一炉庵」

明治36年創業の老舗の和菓子店。素材の味を生かし、昔ながらの製法ですべて手作りしています。種類豊富な上生菓子は、二十四節気でも移り変わり、一年間で450種にもなるそう。創業当時からある夜雨最中などは、近くに住んでいた漱石も食べていたかもしれません。漱石にちなんだ「猫のひとりごと」という菓子もあります。散策のおともにいかがでしょう。